

3世代同居のライフスタイルと家族関係に関する研究

Study on lifestyle and family relationships of three generations living together

建築計画分野 井上佳保

社会環境の変化により選択的に行われている現代の3世代同居には、様々な家庭の問題を乗り越える可能性がある。そこで現代の3世代同居の実態を明らかにすべく、同居に至る経緯や家事、経済といった生活の実態に焦点を当て、3世代のライフスタイルや家族の相互関係を探る。そこには親世代と子世代の間に様々な協力関係があり、4つのタイプに分類した。また、過去の3世代同居とは異なり、世代間でのフラットな関係が伺えた。

There is a possibility of overcoming the various family problems in three generations living together that is selected by a change in the social situations. So in order to reveal the actual situation of them, this study focuss on the reason why they decided to live together and the actual situation of life, such as housework and economy, and explore their lifestyle and family relationships between three generations. Various cooperative relationships between the parent generation and child generation is revealed, and they were classified into 4 type .It shows a flat relationship between the generations unlike the past three generations living together .

1. 研究の背景と目的

3世代同居という居住形態は日本において戦前から封建的大家族制度とともに伝統的に行われてきたが、戦後の様々な社会の変化に伴い、それまでとは違った要因で選択的に行われるようになった。1980年代には土地の高騰による子世帯の経済事情や住宅難、高齢者福祉を背景に3世代同居は着目され、親世帯と子世帯の住生活や空間の分離、いわば「生活の分離度」に着目した二世帯住宅が一般化し、その供給も高まった。

現在は核家族の増加や家族構成の縮減化に伴う家族関係の希薄化が指摘されているが、3世代同居にはそれらを乗り越える可能性がある。親世代にとっては老後の生活や孤独死といった将来の不安を取り除き、子世代にとっては親世代による経済的な補助や住まいの確保、あるいは家事・育児の分担や協力が共働きを支える等、女性の社会進出を支える可能性を有する。

一方、二世帯住宅に関する研究は松本らによって数多くなされている。他の研究者による二世帯住宅や3世代同居に関する研究も数多く存在するが、概ね二世帯住宅の平面構成や空間構成あるいは住まい方や意識に関する研究に分かれる。そこで本研究は3世代同居の独自性や成り立ちに着目し、同居に至る経緯や住まい方を通して、現代の3世代同居のライフスタイルや家族の相互関係を明らかにする事を目的とする。

2. 調査概要

現在も3世代が同居している12事例を対象に、その家族に対してヒアリング調査を行った。また追加調査として5事例に対し、家族一人一人の平日・休日のある1日の行動パターンを調査用紙に記入してもらった。12事例の親世代は年金受給者や社会人、子世代は共働きや専業主婦、子世代は乳児から大学生・社会人まで様々であった。事例概要を表1に示す。

表1. 事例の概要

対象事例	住所	施工年	居住年数	家族構成					ヒアリング対象者	備考
				祖父母世代	親世代	子世代(直系)	子世代	孫世代		
1 Hb家	大阪市阿倍野区	昭和57年	32年		母(79)	娘(54)	婿(57)	長女(29),次女(26)*,長男(24)	娘	※海外で暮らす
2 An家	大阪府富田林市	平成22年	4年		舅(56),姑(53)	息子(23),長女(21)*,次女(19)	嫁(24)	長男(1)	息子,嫁,姑	※半一人暮らし
3 Kt家	大阪府東大阪市	不明	不明	祖母(70)	姑(47)	長女(21),息子(20),次女(12)	嫁(17)	長男(1)	長女,母,嫁	4世代同居
4 Sm家	京都市西京区	昭和55年	34年		舅(80代)	息子(40代)	嫁(40代)	長男(15),長女(13)	嫁	
5 On家	大阪市平野区	昭和25年,48年頃 ※	64年		姑(85)	息子(60)	嫁(59)	長女(25),長男(23),次女(21)	姑,長男	※隣居
6 Kd家	大阪府堺市	昭和45年	44年		母(79)	娘(49)	婿(49)	長女(22),長男(19)	娘,長男	
7 Un家	大阪府堺市	昭和39年頃	50年		姑(80代)	息子(58)	嫁(52)	長男(25),長女(23),次女(20)	姑,長女	
8 Mb家	大阪府堺市	平成11年	15年		舅(73),姑(74)	息子(44)	嫁(42)	長女(19),長男(17),次男(4)	舅,姑	二世帯住宅
9 Km家	大阪府堺市	平成元年	25年		母(74)	娘(50)	婿(54)*	長女(20),次女(18)	娘,長女	※単身赴任中
10 Id家	大阪府堺市	昭和42年	45年		父(77),母(75)	娘(44)		長女(8),次女(6),長男(5)	母	
11 St家	大阪府東大阪市	平成4年	22年		舅(72)	息子(46)	嫁(41)	長男(14),次男(9),三男(7)	息子,嫁	
12 Ks家	大阪府堺市	昭和57年	32年		舅(76),姑(74)	息子(49)	嫁(48)	長女(23)*,長男(21)	舅,嫁	※留学中

3. 同居の経緯

(1) 同居経緯の分類

3世代同居に至る経緯は4パターンに分類できる(表2)。対象事例では、現在の家族構成に至る経緯は帰郷的3世代か継続的3世代であった(表4)。過去に家族構成が変化の中でAn家とKs家で受容的3世代が、Hb家とAn家で一時的3世代が成立していた。

(2) 帰郷的3世代

同居以前から親世代と同居を想定している場合と想定していない場合がある。前者は子世代の結婚に伴い、夫婦で生活をしてみたいという希望と将来的には親世代の面倒を見なければならぬという意識が重なった結果、一時的に別居する。同居の目的は親世代の面倒見以外に、経済的合理性や孫世代の成長に伴う幼稚園や学校選びにあり、前もって同居が想定されている。後者は子世代の戻りや突発的な出来事が同居のきっかけである。同居の目的は親世代からの経済的補助や家賃が不必要といった経済的合理性、そして家事や育児を親世代に頼るといった負担の軽減にある。

Kd家では、平成2年に子世代の娘が結婚しマンションで別居をするようになり、平成5年に孫世代の長女を生まれる。平成7年には阪神淡路大震災をきっかけに実家に戻る[1][2]。震災という突発的な出来事がきっかけの帰郷的3世代である。やがて孫世代の長男が生まれ、平成23年には父が亡くなり、現在の家族構成になる。同居の目的は長女の通う保育園は、実家近くの保育園にしたかったという育児環境、出産後も仕事を続けるためには父と母の協力が必要だったという社会進出、新居の購入は大変だと考えた事にある。

(3) 継続的3世代

継続の仕方には一般的な継続と突発的な継続がある。前者の目的は経済的合理性や家事負担の軽減といった相互扶助にある。後者では同居のきっかけが子供のでき婚であり、現代的な同居の経緯だといえる。その目的は親世代からの経済的補助をはじめとし、若い子世代の知識不足を補う育児のサポートにある。

An家では平成19年に東京から大阪に引っ越す[図1]。当時は母方の祖父母の近くに父方の祖父母と住むための家を建てるべく、父の実家に身を寄せて土地を探していた[3]。そこで一時的に3世代が同居している。当時、祖母の世話は母がしていた。やがて土地が見つかり新居を設計する。しかし設計を進める段階で父方の祖父が亡くなり6人で住むための新居を設計するようになる。その際、祖母が住むという理由でバリアフリーを意識した設計になっている[4]。平成22年に新居に引っ越しするが、祖母は祖父の遺品の整理のため、平成24年に遅れて同居し、6人家族となる。新居に親世代を受け入れ受容的に3世代が同居している。

表2. 同居の経緯の分類

帰郷的3世代	子世代が結婚後に親世代と別居し、後に親世代の元に帰ることで同居がはじまる。
継続的3世代	子世代が結婚後に別居せず、そのまま親世代の住まいで同居し孫世代が生まれて3世代が同居する。
受容的3世代	子世代が結婚後に別居し、そこに親世代を迎え入れる事で同居がはじまる。
一時的3世代	家庭の事情によって一時的に3世代が同居する。

表3. 同居の経緯

Kd家 同居のきっかけと目的	
[1]震災で、そんな大きい被害があった訳じゃないんですけど14階に住んでたんで結構揺れて。長男妊娠中っていうのもあって、恐怖心というか。そんなのがあってそれで戻ってきました。家あるしお金も要らんしね。長女も保育園入園するって言うときやったら実家近くの保育園に入園させた方がいいかなってのもあって。/Kd家娘	
[2]私出産後も働きたいと思って、父母の協力あったら楽やっした。お金払うのも大変やし。同居したら楽やしね。/Kd家娘	
An家 同居のきっかけと目的	
[3]お母さんの方の実家に東京から帰ってきて一瞬住まわせてもらった。家見つかるまで住まわせてもらった。僕がマスオさん状態やね。2007年3月から2010年7月まで。/An家舅	
[4]じいちゃんが亡くなって、おばあちゃん一人で住む訳にもいかんから、新しい家つくって。おばあちゃん用で作ってるから手すりとかもあるし、段差もほとんどない。/An家息子	
[5]簡単に言ったら、俺が子供で来たから。でき婚でめっちゃ反対されつづつあったけど、でもまあ子供できたから結婚するしかないってなって。でも俺も学生で、就職も決まらなかったからとりあえず父さんに頭下げて、ちょっと世話して下さい。/An家息子(長男)	

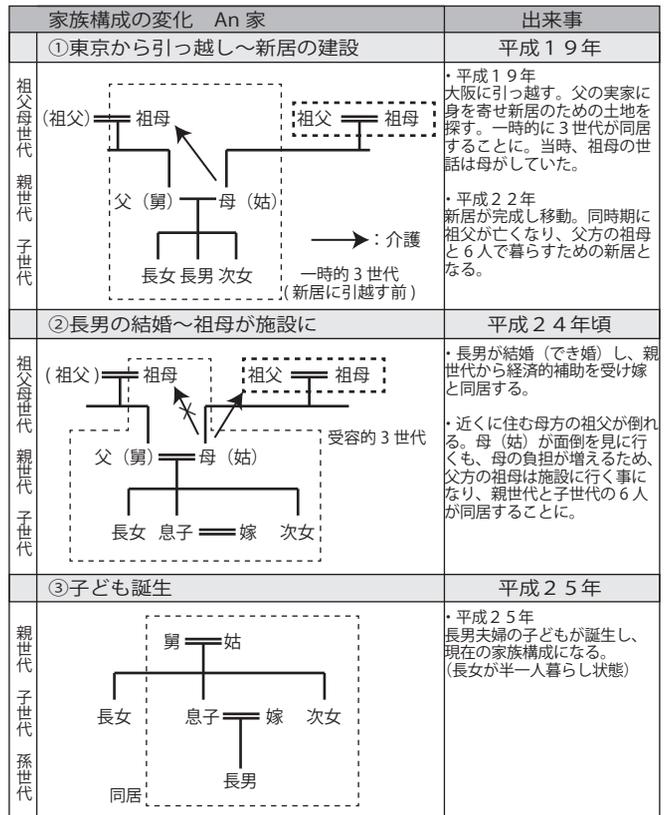


図1. An家：家族構成の変化

しかし、同年に子世代の長男ができ婚。経済的に親世代に世話を必要としたため嫁と同居する事になり、7人家族となる[5]。同居後、間もなくして母方の祖父が倒れ、祖母の面倒を見ていた母の負担が増える事になった。それをきっかけに祖母は施設に行き、母(姑)は祖父の世話をしに実家に通うようになる。翌年の平成25年に長男夫婦の子供が誕生し、現在の家族構成になる。以上よりAn家の同居理由は親世代からの経済的補助及び育児協力である。

4. 生活の実態

(1) 食事・調理者

家族の集まりやすい夕食の食事風景は①世代に関わらず家族が集まって食事をする集合型、②親世代と子世代・孫世代が別々で食事をする分離型に分かれる。

集合型には、朝食と昼食は別々だが夕食は一緒にとる事例もあり、家族が集まる機会を夕食に設けている。また、集合型を調理者とその協力関係で分類すると①曜日やメニューによって調理者が変わる分担型、②共同調理をする共同型、③親世代が中心に調理する親主体型、④子世代が中心に調理する子主体型に分かれる。An 家では曜日によって調理担当者が異なり、Kt 家では体調次第で祖母と嫁と一緒に調理をしている。いずれも、祖母が若い嫁に教えるといった協力関係がある。

(2) 掃除

掃除の実態は①親世代と子世代で掃除する領域が異なる分担型、②親世代と子世代が同じ領域を掃除する共同型、③子世代が中心となって各階の掃除をする子主体型に分かれる。なお親世代が中心となる親主体型は今回の調査事例では確認されなかった。

1 階は親世代、2 階は子世代といった分担型と臨機応変に互いが掃除するといった柔軟な協力関係のある共同型は互いの家事負担を減らす。一方で子主体型は、親世代の高齢化または親世代が自らのライフスタイルを優先することに伴って子世代に委任されている。

(3) 洗濯

洗濯の実態は①洗濯の全てを子世代が担う依存型、②臨機応変に親世代と子世代が協力しながら洗濯をする協力型、③洗う、干す等の作業によって担当者が異なる分担作業型、④衣類を区分し、親世代と子世代それぞれが洗濯をする区別型に分かれる。

3 世代同居では家族人数が多くなるため、共同型、

作業分担型、区分型といった協力関係が展開されており、負担が軽減されている。子世代の不在時には親世代が代わりに洗濯作業を進めるといった関係も多い。

(4) 経済

経済はその管理の仕方によって①親世代あるいは子世代が全ての面倒をみる依存型、②親世代と子世代の収入を一人が管理する一元管理型、③親世代と子世代で支払う項目が異なり、それぞれがお金を管理している分担型に分かれる。さらに分担型は支払う項目によって細分化でき、①支払う項目が全て異なる完全分担型、②支払う項目の一部を一緒に負担する一部共同型、③親世代が子世代に、または子世代が親世代に、支払う項目の一部を現金で納める納入型に分かれる。

表 5. 近所付き合い

世帯を超えた付き合い	
[6]	お母さんの知り合いでもここ(居間)へ来て一緒に喋って、お喋りして。孫の友達もここへ来てよちゅうここで一緒に喋ります。食事することもあるね。私がおしやべりやからかね。抵抗もないですね。私若い人好きだから。音からずつと色んな人が出入りしてる。/On家.姑
[7]	私の実家が近所での辺りにも知ってる親世代の人が居るので割となじみがある。同世代だけじゃなくて親世代とも。近くで会えば世間話して。子ども挨拶しますし。子どもは今どうしてるのとか。買い物に行くと近所のその親世代の人にあつたら、最近おばあちゃん見ないけど元気とか、実家の母はどうとか。どっちも知ってたりするのでそういう話で。/Ks家.嫁
過去の付き合いの波及	
[8]	S:今でこそないけど、20年ぐらい前は、誰かが亡くなったりしたら、まだ自宅でやってる所が多かったかな。近所が集まって、炊き出ししてくれて、そういう世話を皆この辺はやってて。D1:ウチのおばあちゃんが亡くなった時も受付とか近所の人がやってくれて。今は式場でスタッフがやってくれるけど、それ以前は近所が集まって、誰がアレやコレやして受付誰で、炊き出しして、ご飯作って、ひっきりなしに入ってきて、「何もない？」って。S:近所付き合いがあったからこそ子どもが出来ても周りみんな、誰々の所のお兄ちゃんの子やっていると見てくれるから、「あの子どこで見たよって話してくれるしそういうおばあちゃん達とも子ども話したりする。全く見知らぬ人ばかりじゃあから、この辺は結構安心して表でも遊ばせる。誰かの目で見えぬ見られてるから安心できる。/St家.息子と姑
[9]	夏祭りで金魚いっぱい取ってきたら、隣の隣のお家の水槽に入れて。そこでそこそこ育てて何匹か死んでいったら、元気な金魚をウチの水槽に戻ってくる。/St家.嫁
[10]	隣の家に車庫まで建ててもらってる。隣の家が未亡人で、一人になってしまうの。駐車場探してって言ったスペースがまた空いてたので防犯のために。男手が出てくるって言うのはすごいことだと。だから朝行ってきますって言って隣の家のガラガラって出て車出して、それも閉めんといてって言われてるんですよ。/St家.嫁
[11]	ご近所の方とか変な言い方でですけど同居が早ければ早いほど馴染めたり、可愛がっていただいた。近所はおじいちゃんおばあちゃん多くて私の世代が少なくて。で、お母さん亡くなったので、代わりは何からお寺の事とか、ご近所の事とか行く事と多くて、で勝手に分らないので周りのお義母さんのお友達とか同じ世代のおばさん達があやでこうやでって親切に教えて下さったり。/Sm家.嫁

表 4. 家事・経済の分類

事例	(1)Hb 家	(2)An 家	(3)Kt 家	(4)Sm 家	(5)On 家	(6)Kd 家	(7)Un 家	(8)Mb 家	(9)Km 家	(10)Id 家	(11)St 家	(12)Ks 家			
現在の同居のきっかけ	帰郷的	継続的	帰郷的 継続的	帰郷的	継続的	帰郷的	帰郷的	帰郷的	帰郷的	帰郷的	帰郷的	継続的			
理由・目的	経済的合理性 自宅療養	経済的補助 孫の世話	経済的補助 経済的合理性 孫の世話	親世代の世話	経済的合理性 家族仲	育児環境 経済的合理性 社会進出	育児環境 親世代の面倒	親世代の面倒 相続	親世代の面倒 相続 婿養子	経済的合理性 住まいの確保	経済的合理性 親世代の面倒 育児環境	経済的補助 家事の依頼			
夕食風景の分類	分離型	集合型	集合型	集合型	集合型	分離型	集合型	分離型	集合型	集合型	集合型	分離型			
朝食・昼食のとり方	親世代別	—	—	—	親世代別	親世代別	—	親世代別	親世代別	—	親世代別	—			
夕食のとり方 (α:集まれる人)	母だけ別	姑、息子、嫁 長男 +α	祖母、嫁 次女 +α	舅、嫁 +α	姑、嫁 +α	母だけ別	姑、嫁、次女 +α	親世代と 別々	母、次女 +長女	全員	全員	平日:世代別 休日:全員			
調理者の分類	—	分担型	共同型	子主体型	子主体型	—	子主体型	—	子主体型	親主体型	子主体型	—			
分離型の内訳 (○:一緒、×:別々)	時間:○ 場所:× メニュー:×	—	—	—	—	時間:○ 場所:× メニュー:×	—	時間:× 場所:× メニュー:×	—	—	—	時間:○ 場所:× メニュー:○			
調理者	メイン その他 手伝い	母と娘 — 孫世代	姑と嫁 舅 次女	祖母と嫁 — 長女と次女	嫁 — 次女	嫁と娘 — 婿	嫁 — 長女と次女	姑と嫁 — —	母と娘 — —	母と娘 — —	舅と嫁 — —	姑と嫁 — 息子			
夕食の調理風景	世代別	曜日分担	共同	嫁一人	嫁一人	世代別	嫁一人	世代別	娘一人	母一人	嫁一人	世代別			
掃除担当者の分類	共同型	共同型	共同型	子主体型	共同型	子主体型	分担型	分担型	子主体型	分担型	分担型	分担型			
掃除	1階 2階 3階	母と娘 母と娘 —	嫁時々姑 各自	祖母時々嫁 祖母時々嫁 —	嫁 嫁 —	姑 嫁 息子 姑 嫁 息子 —	娘 娘 —	姑 嫁 —	姑 嫁 —	娘 娘 —	母 娘 —	舅 嫁 嫁 —			
洗濯行為の分類	協力型	分担作業型	区分型	依存型	区分型	分担作業型	区分型	区分型	協力型	協力型	依存型	区分型			
洗濯	分け方	一緒	一緒	弟夫婦とその子供 その他	一緒	姑と息子の下着類 その他	一緒	姑の衣類 その他	親世代の衣類 子世代孫世代の衣類	一緒	朝	夜	一緒	親世代の衣類 タオル	その他
	洗う	母と娘	姑	嫁	嫁	姑	全員	嫁	嫁	娘	母	娘	一緒	嫁	嫁
	干す	母と娘	姑	嫁	嫁	姑	娘	姑	嫁	娘	母	娘	一緒	嫁	嫁
	取り込む たたむ	母と娘	嫁	嫁	祖母	嫁	母	母	姑	母と娘	母	娘	一緒	嫁	嫁
経済の分類	分担型 一部共同	依存型	分担型 一部共同	一元管理型	分担型 一部共同	分担型 納入	分担型 納入	依存型	分担型 完全分担	分担型 納入	分担型 完全分担	分担型 完全分担			
食費 光熱費 教育費 固定資産税 (/:別々で支払い)	母/娘 母、婿 — 母、娘	舅、姑 舅、姑 舅、姑	祖母、姑、長男 祖母、姑 祖母	舅、息子 舅、息子 舅、息子	姑、息子、嫁 姑、息子、嫁 姑、息子、嫁	母/娘、婿 息子、嫁 息子、嫁 息子、嫁	息子、嫁 息子、嫁 息子、嫁 息子、嫁	息子、嫁 息子、嫁 息子、嫁 息子、嫁	娘 父、母 父、母 娘	父、母 父、母 父、母	舅/息子 息子 息子	舅、姑 舅、姑 息子			

(5) 近所付き合い

3世代同居の近所付き合いの特性として、①世代間の交流と②過去の付き合いの波及がある。

①世代を超えた交流：On家では各世代の知り合いや友人が来訪した際、家族ぐるみで食事やおしゃべりをし、世代間交流が活発にみられる [6]。Ks家の嫁は親と同世代の人との付き合いがある。嫁ぎ先の両親や実家の両親の話題で世間話をし、安否の確認をはじめとする情報交換がなされている [7]。

②過去の付き合いの波及：St家の住む地域では過去には通夜・葬儀を自宅とする風習があり、その際の培われた付き合いが子世代の顔見知りを増やし、不審者の発見や子供の見守り、子供を外で遊ばせても大丈夫という安心感につながっている [8]。また、夏祭りで子供が持ち帰った金魚を隣の家の水槽に入れたり、隣の駐車スペースを借りることが防犯に役立つといった豊かな付き合いに発展している [9][10]。Sm家では亡く

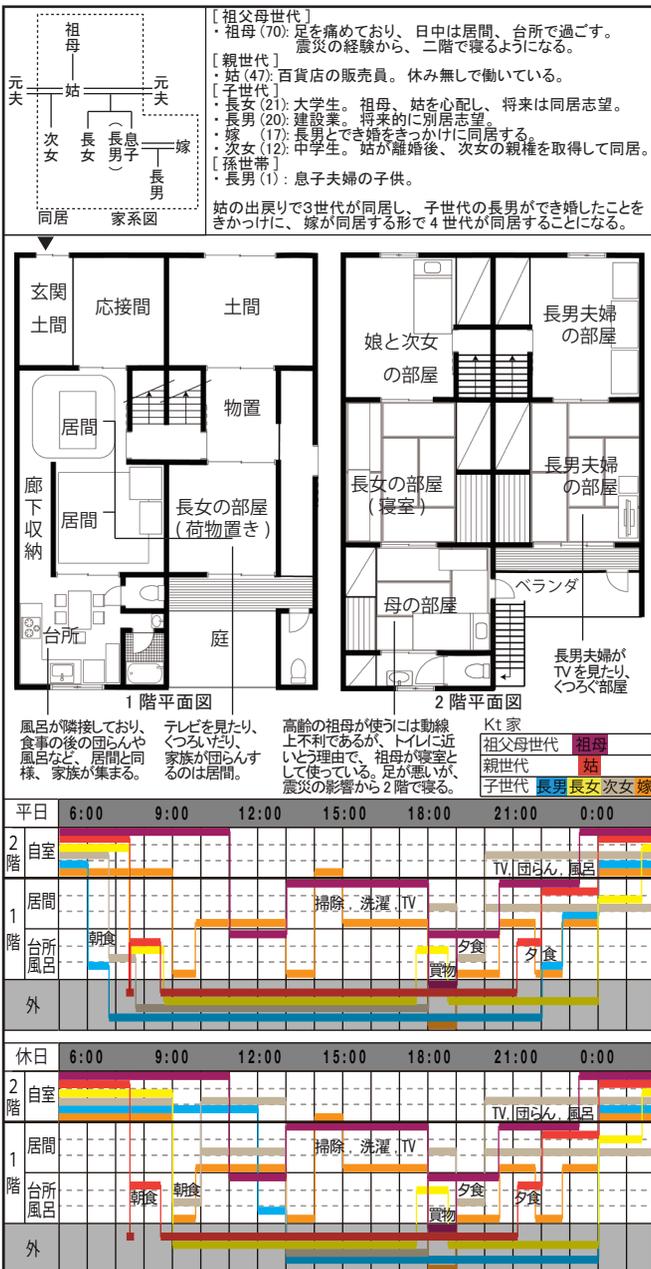


図2. Kt家の家族構成と住まい方

なった姑が形成していた地域との関係が、嫁が地域に馴染むことに貢献している。突然の同居にも関わらず、早くに地域に馴染めたのは、姑の友達や姑と付き合いのあった近所の人の手助けによるものである [11]。

5. ライフスタイルの特性

図2, 図3にKt家とUn家の家族構成及び各部屋の使われ方、平日、休日の過ごし方を示す。

(1) 空間構成と設え

[Kt家] 1階の長女の部屋は長女が受験期の時に勉強部屋として活用されていたが、現在は荷物置きとして使われている。また、土間空間も姑や嫁の引っ越しの際の荷物が置かれている。居間にはテレビがあり、家族の団らんの場所となっている。長男夫婦の部屋にもテレビがあるが日中は使用されず、居間で見る事が多い。また、階段が分かれており長男夫婦の部屋は動線上分離している。祖母の部屋に行くには足の悪い祖母にとって嫁と次女、長女の部屋を通るため動線上不利な

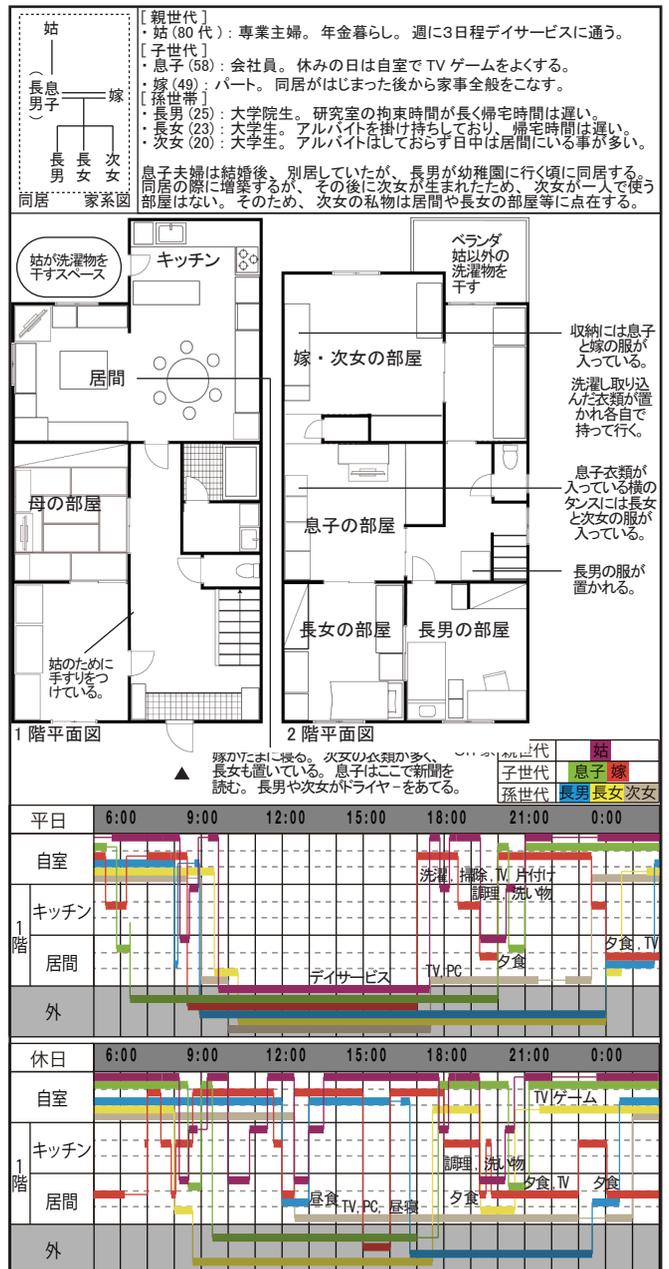


図3. Un家の家族構成と住まい方

位置だが、トイレが近いという理由から寝室として使っている。よって 2 階は寝るための部屋としての性格が強く、普段の居場所は居間や台所だといえる。

[Un 家] キッチンと居間は空間的につながっている。姑の部屋は 1 階にあり、居間と同様にテレビがある。洗濯は 1 階に干し場があり姑の生活範囲は 1 階で完結している。姑以外の部屋は 2 階で、長男の部屋以外は全ての部屋にテレビがある。息子の部屋は長女の部屋に至る動線上にあり、完全な個室ではない。また次女だけの部屋はないため、私物は様々な場所に点在しており、居間を中心に生活範囲が多様に展開している。

(2) 個人のライフスタイル

[Kt 家] 祖母は専業主婦のため、平日と休日で生活リズムは変わらない。起床時間は遅く、朝昼兼用のご飯を食べる。自室は寝るため、もしくは洗濯物をベランダに干す際に通るだけで、日中は居間を中心に生活し、テレビや昼寝、掃除をして過ごす。体調次第では 18 時頃に買い物に出かけ、夕食の準備をする。姑は休みなく働いており、日中家に居る事はなく、帰宅後は台所で夕食をとり、その後居間でテレビを見るといった団らんの時間を 2 時間程過ごす。長女は平日も休日も日中は学校に行き、一度帰宅して夕食を食べてからアルバイトに行く。アルバイトがない時は犬の散歩にいたり居間で時間を過ごす事が多い。次女は平日は学校と部活動がある。休日の午前中は居間でテレビか自室で勉強をして過ごし、昼以降に遊びに行く。長男は夜勤や休日出勤が多く、休みの日は半日寝る。午後になって夫婦で出かけることもあるが、夜は飲み会等で帰宅が遅い。嫁は専業主婦のため、平日と休日で生活は変わらない。乳児に合わせ起床時間は遅く、起床後は祖母と同様、居間を中心に掃除や洗濯をして、空き時間はテレビを見たり、くつろいで過ごす。昼食後は長男を寝かしつけ、18 時頃に買い物に出かける。

[Un 家] 姑は平日の 3 日間デイサービスに通う。それ以外は自室でテレビやマッサージで日中を過ごす。夕食後は入浴やテレビを見るため、自室にいる時間が長く、家事を嫁に任せ自分の生活リズムで生活している。息子は自室でテレビゲームをする事が多く、休日にはパチンコに行くため、居間に居る時間は短い。嫁は平日は夕方まで仕事をし、帰宅後に掃除や洗濯、夕食準備をし、食後に自室でテレビや PC、片付けをする。長男と長女はアルバイトや学校で帰宅が遅く、夕食は 0 時頃にとる。嫁は食事の片付けの後、そのまま居間で寝る事もあり、嫁と長男は翌日の朝に風呂に入る。長女は食後に風呂に入り、自室で髪を乾かしつつ、テレビや PC といった時間を過ごす。次女は平日は学校に行き夕方に帰宅。休日は昼まで寝て、日中は基本的に居間で昼寝やテレビ、PC といった過ごし方をする。

(3) 家族のライフスタイル

[Kt 家] 家族全員が 1 階の公室に集まる時間が多い。平日では、日中は祖母と嫁が基本的に台所や居間にいる。洗濯は洗濯物によって分担しており、買い出しや食事の準備は共同でしている。休憩の時間を含め、一緒にいる時間が最も長い。夕食は祖母、次女、嫁の 3 人が一緒にとり、その後 3 人が一緒に居間でくつろぐ。その後、姑、長男が順に帰宅し、嫁が長男の夕食の準備をする。23 時前後には長女以外の全員が集まり居間でテレビやくつろぐといった団らんの時間がある。長女はそのライフスタイルから、姑と入れ違いで団らんの場に加わっている。休日では、それぞれが思い思いの起床時間となっており、昼前に居間に集まり出している。12 時前後で昼食や団らんの時間があるが、長男は比較的短い。19 時頃には祖母、嫁、次女が夕食を一緒にとり、その後居間でテレビといった団らんの時間となる。21 時過ぎの帰宅した姑が食後にその団らんに加わり、祖母、姑、嫁、次女の 4 人が居間で過ごしている。長男と長女は帰宅が遅く、団らんの場に加わっていない。

[Un 家] それぞれが自分のライフスタイルを優先し、家族が揃う時間は少ない。平日では、それぞれの身支度や家事のため、家族で集まる時間はないが、夕食は 19 時から 20 時の間で姑、嫁、次女の 3 人が一緒にとる。その後、姑や嫁が食後の片付けをしている時に息子が帰宅。アルバイト後の長男、長女は夜遅くに帰宅し、2 人が揃って食事をとっている。居間では次女が長居しているが、3 人以上が同じ時間を過ごす場面はほとんどなく、全員が揃った団らんの時間はない。

休日では、8 時半から 9 時頃に各自朝食をとり各々の時間を過ごす。昼食は姑、嫁、長男、次女の 4 人が一緒にとっている。昼食後は次女は居間でくつろぎ、姑、嫁、長男は自室に戻っている。19 時頃には姑、嫁、長女、次女、遅れて息子が夕食をとっている。息子は食後には自室に戻っており、姑も居間に居続けることはなく、テレビを見に自室に戻る事が多い。

以上より、積極的に家族の時間をとっている様子はないことがわかる。夕食時に家族が集まりやすいものの、夕食後は自室に戻ることがある。自室に戻る理由は、息子は自室でテレビゲーム、姑は自室でテレビといった各自のライフスタイルの優先にある。

Kt 家と Un 家を比較すると、Kt 家では居間が家族の居場所となっているのに対して、Un 家では個室が居場所となっている。また、ライフステージの違いによって家族の集まりやすさは異なるものの、食後の団らんの時間に明らかな差がある。その要因は各々の部屋にテレビがあるかどうか大きい。Un 家では食後にテレビを見るというライフスタイルを優先している。

6. 相互関係

親世代と子世代の家事・経済の協力関係から家族関係を相対化すると4パターンに分類できる(図4,5)。

(1) 相補的3世代

親世代と子世代が明確な役割を持たず、協力や分担といった相互扶助によって生活する3世代同居。各世代の年齢が比較的若く、仕事等で家事に費やす時間が少ない。そのため親世代と子世代が相互扶助的な協力関係の下で暮らしている。親世代が仕事をしている場合、経済力があるため、子世代、孫世代を経済的に補助する一方で、時間が無い分子世代と分担して家事をする。親世代が働いていない場合、親世代の年金と子世代の収入で経済的に支え合っており、家事についても分担や共同作業がある。また、部屋の使われ方に関しては、家族揃ってリビングやダイニングといった公室にいる時間が長く、個室では寝る、着替えるといった限定的な使われ方が多い。

(2) 不即不離的3世代

生活の場面によっては、相互扶助による協力関係が展開するものの、分離する一面を有し、付かず離れずの距離感で生活する3世代同居。親世代は退職し、家に居る事が多い。しかし、高齢のため積極的に家事をする訳ではなく、自分の健康を考え無理の無い範囲で子世代の家事や育児に協力する。互いが適度に干渉し、

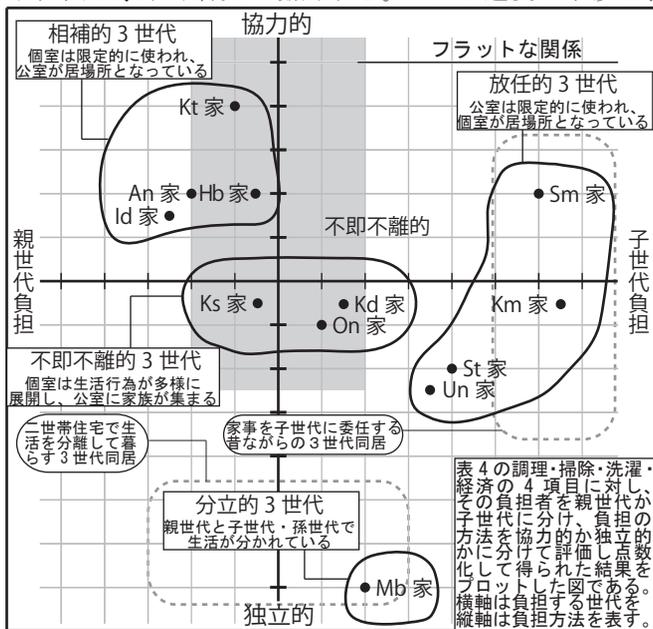


図4. 関係座標

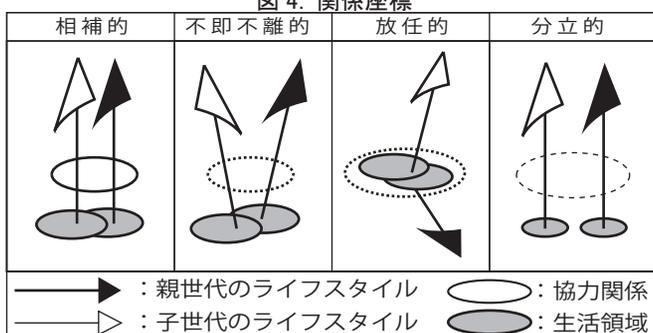


図5. 3世代同居のイメージ図

お互いのライフスタイルを尊重し合う同居といえる。部屋の使われ方は、公室にいる時間がやや長い、個室でも生活行為が多様に展開している。

(3) 放任的3世代

各世代が自分のライフスタイルを優先し、家事や育児は子世代に委任されて生活するも、生活の一部を共有する3世代同居。親世代は退職し自らの趣味に時間を費やす、もしくは高齢化に伴って隠居していることが多い。協力関係は薄く、ほとんどの家事を子世代に委任している。しかし同居しているということを踏まえ最低でも夕食は一緒にとるような関わり方をする。部屋の使われ方は、公室にいる時間が短く、個室がそれぞれの家族の居場所となる傾向がある。

(4) 分立的3世代

親世代と子世代で家事が分かれ、最低限の関わりがあるものの、お互いの生活に干渉せずに生活する3世代同居。お互いに必要以上の干渉を避け、非日常的に関わり、親世代と子世代で生活が分かれている。そのため、部屋の使われ方も世代で分かれている。

7. まとめ

(1) 3世代同居の成り立ち

現代的な同居経緯には①夫婦が一度別居を経験してから親世代の面倒見や孫世代の育児環境を考えた、もしくは突発的な出来事によって同居を余儀なくされた帰郷的3世代と②子世代のでき婚をきっかけとした継続的3世代に特徴がある。それぞれの同居の理由や目的は複層的に重なるが、主に経済的合理性や補助、家事・育児負担の軽減がある。これらは、子世代の女性にとって社会進出の可能性を秘めており、子世代が働きながら如何に親世代と協力しながら家庭内の家事・育児の負担を軽減して行くかを考える必要がある。

(2) 3世代同居の生活と家族関係

親世代と子世代の関係にはフラットな関係が築かれていることがわかった。どちらか一方が家事や育児、経済の負担を担うのではなく、経済的合理性や補助、家事の共同や分担作業といった協力関係がある。

以上より、今後の3世代同居は、親世代と子世代が適度な距離を保つための、いわば分離度に注目する二世帯住宅のような提案ではなく、親世代と子世代・孫世代のライフスタイルを考慮しながら、如何にして世代間で協力関係を築くかが重要である。

【参考文献】

- 1) 松田祥江「『三世帯同居』に関する史的・研究蓄積からみた三世帯同居研究の動向」日本建築学会九州支部研究報告第45号 計画系 929-932, 2006. 3
- 2) 横山純子、神谷ゆかり共著「三世帯同居の家族関係」. 淡水社. 1990. 2.
- 3) 笹本剛他「二世帯住宅における住み方の評価に関する研究：親子二世帯の「生活の場の分離度」と「要介護者の有無」からの分析」日本建築学会大会学術講演梗概集(東海) 5575 2006. 9
- 4) 北川啓他「二世帯住宅における利他行動からみる空間特性」2011年度日本建築学会関東支部研究報告集II 5004 2012. 3
- 5) 松本吉彦他「近居と同居における「孫共育」の比較：親子ネットワーク居住の実態調査(1)」「二世帯同居における家事協力・集約と居場所：親子ネットワーク居住の実態調査(2)」日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸)5706. 5077
- 6) 松本吉彦他「共働き・親同居による生活リズムの違い：子育て家族の住まい方調査(2)」日本建築学会大会学術講演梗概集(東北)5623 2009. 8

諮問会 討議

討議 [倉方 俊輔 准教授]

まず、よく調査したなっていうのと、かなりプライベートな所まで踏み込んで、これだけのサンプル数になったっていうことと背景と努力とか本当敬服します。既往研究もしっかりしてるし、分析もしっかりしてるし。で、ひとつ、現代的3世代という言葉で、最後説明というか分析しているんですけども、現代的って言う事の意味っていうか、あるいはこういう言葉を使う事の意味をもうちょっと教えて欲しいということがありまして。たぶんフラットな関係ということだと思いませんか。昔はフラットは関係じゃなかったのか、昔っていつてもどの辺りを昔っていうかによるんですけど、そのフラットな関係にあったんじゃないかっていうのは、あんまりデータがないっていうか。一般的にヒエラルキーがあったように言われているけど、庶民っていうのはもうちょっと助け合いながら生きていたので、なんかそのへんの現代的っていうときのアレが、社会背景が現代において変化していったっていうのが、こういったものに影響しているとするれば、それは昔と同じ形でも現代的って言えるかもしれない。で、今のありようって例えば核家族にどんどん進んで行くもんだっていう事に対して、やっぱり違う動きが今起こってるって言う事をすごく取り上げていると思うんですけど、その時に現代性っていうのは、範囲超えるかもしれないけど、社会学的な調査でもあると思うんで、もうちょっと社会全体の変化とか、あるいはありようって関係してて、その3世代同居って現代的なありようとかどういう風な、大きな物語を、話をその辺りの話を。分析じゃなくてもいいですけど。

回答

まずきっかけとしましては、女性の社会進出に伴う助けになるんじゃないかという思いが僕の中でありまして。やはり昔との違いとして女性の社会進出が近年の傾向だと思ったので。それに対して、親世代との育児や家事の協力があるからこそ、時間的な余裕や負担の軽減で女性の社会進出につながるのではないかと。

討議 [倉方 俊輔 准教授]

なんかそれがもう少し、最後のまとめのところに明確に出てくると良かったかなと思って。なんか団らんの場所が必要ってそりゃそうだろうって思って。もうちょっと、そこだけの時間のやり取りからして、まあ社会進出っていいのか、もしかしたら、旦那の給料が減っちゃって出たかなきゃ行けない、まあどちらにせよ女性が働くようになったって言うのは大きな理由だ思うんですね。で、その時の団らんの場所が必要っていう結論ではないんじゃないかなと。でも今の聞いて納得しました。

討議 [小林 知広 講師]

最後の方で座標で、これって建築計画的なもので制限を受けて変わる事があるのか。そういうところって興味があるんですけど、何かそんな、グループの人たちは、建築計画的にこういう特徴があったよって、そんな視点の分析ってされてるんですか。

回答

明らかに違うのが、分立的3世代です。Mb家に関しては二世帯住宅として建てられた住宅で、1階が親世代、2階3階が親世代の生活をしています。そうならざるを得ない様な建築計画になっています。

討議 [倉方 俊輔 准教授]

今の質問に関係してるっていうか、3世代同居のプランニングってあるんですか。二世帯住宅はプランニングの仕方ってあるし、それに対して3世代同居のプランニングってどういう物が標準だったり、つまりはそういうものが今後あるべきだっていう話でしょ。今の時点であんまりなんですか。

回答

基本的にないと思っています。二世帯住宅と同じようなプランで3世代同居のプランはありますが、如何に協力関係を築くかが大切で、そこをプランニングの話に落とし込めていないのが今後の課題です。

[小林 知広 講師]

助け合う事が基本的にはいいと思ってると思うんですけど、3世代同居の建築計画で（座標の）こっちに寄せる様な計画であったり、そういったものがあればおもしろいんですけどね。

討議 [横山 俊祐 教授]

例えば相補的關係の家族のための住宅のプランニングをすとして、井上の方法を教えて下さい。

回答

相補的だと、個室が寝室としての性格が強く、TVをみるといった行為は公室だったので、そこがプランニングのとっかかりだと思います。

[横山 俊祐 教授]

じゃあ個室を親世代も子世代も持ってて、あととはとにかくコモンスペースを色々な場所として活用できるように計画するということ

回答

はい。

[横山 俊祐 教授]

おじいさんお婆さんの部屋が特別扱いされないって言うのはちょっとおもしろいなって思いますけどね。

討議 [倉方 俊輔 准教授]

でもね、おもしろい、長寿命化の問題とかね、色々含めて今までとは違う関係になっていくっていうのを、プランニングに落とすとすごいおもしろいんじゃないかと。

[徳尾野 徹 准教授]

豊かな共同キッチン、リビングを持つ学生寮みたいな感じなんかな。

回答

イメージは近いと思います。

[倉方 俊輔 准教授]

そういう時に夫婦の寝室問題とか、核家族って夫婦の寝室が中心だけど、要するに、まだでき婚でも2人目3人目が生まれるかもしれないじゃないですか。そういう場としての寝室って、じゃあ特別な場として考えるのかとか、結構色んな問題を定義しますよね。